

2012年  
クイーン倶楽部だより 6月号  
第114号

ERIN 有限会社エコ・ライス新潟  
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100  
TEL 0258(66)0070 FAX 0258(66)0447  
URL http://www.eco-rice.jp/  
E-mail eco-net@nekonet.ne.jp



第6期 白藤プロジェクト  
白藤田植え in 新潟県見附市  
今年も無事終了!

6回目を迎えた白藤田植え。今年も6期リーダーの鮫島さんと15名の家政大生が新潟にやってきました。今回は見附市の岩淵さんの田んぼをお借りしての田植え体験。岩淵さんとご近所の農家さんに植え方を教えてもらい、いざスタート！泥で足を取られたり、先輩からの愛のムチで泥だらけになったりしましたが、楽しみながら手植えと田植え機を使って3時間で2反分の田植えを完了！



生産者から直接米作りの苦労話やうんちくを聞く。学生にとって貴重な経験。



ゴロ押し(写真奥)はコツがいる作業。力加減を間違えるとマス目が深く入ってしまい、苗が植えられなくなってしまいます。



お昼はおかあちゃん手作りの新潟の郷土料理。車麩やぜんまいの煮物、竹の子ごはんなど新潟の味を堪能。



田植後は、月末から始まる「大学は美味しい！」に向けて、ガトウ専科さんから商品説明のレクチャー。プロの販売技術を学びました。

ドクター  
中村の

健康  
徒然記

その16

心の持ちようで痛みは倍加



中村 信也(なかつらのぶや)  
医学博士、東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療の医学薬膳研究の第一人者」として活躍中。

ちびっこ相撲大会がいま旬で、あつこちで行われています。小学校一年生から六年生まで男女別でトーナメントされてゆきますが、東京では区大会、都大会、全国大会と優勝者は昇つてゆき、何事も平等主義な現代の小学校では、競争は新鮮な出来事らしく、親子ともにむきになっているのが解ります。各大会で12名の勝者が選抜されてゆき、やがて日本一の名譽を得ることになります。

この大会は毎年実施され、青年会議所が主催、区の教育委員会が協力の形で行われます。東京都の北区青年会議所とは色々付き合ひがあり、今回医師として手伝つて欲しいと頼まれ承知しました。

大会は大賑わいで4200人ほどの小学生が参加し、父兄、友人、先生らが集まり、異様な熱気に包まれます。医務室でボランティアの看護師2名と待機していると、相撲の始まる前から2人の腹痛が早速やって来た。2人とも結構痛そうで臍の横が痛いという、いわゆる臍疝痛で、緊張が起つたと推察できる。相撲前から負けているのである。寝かしていたが、暫らくよくなり医務室を出ていった。入れ違いに相撲での受傷組がやってきた。約20名医務室にやってきたが、1名の鼻血は勝ち組で、すぐに試合に戻らねばならないので脱脂綿を詰めると走って行った。他の負傷者は全て負け組で、診察していると奇妙な一致性があつた。

すなわち、頭のこぶが痛いと言きながらやってきて、こぶは全くな、痛いと大泣きしていました。大したことないと言きながら氷袋を与えると十分くらいで出てゆく。そして、次の負傷者が頭抱えて泣きながらやってくるという繰り返しでした。これも同じパターンが続くと、さすがに痛みのための泣きではなく、くやし泣きだと気付かれました。そこで、「負ければ痛みは五倍でも十倍でもなる」とはつきりと認識した次第です。

患者さんには痛みが屋がいますので、そういう方は一の痛みが五や十にもなるといえます。また、本人の心次第で病氣をつくつてゆくとも言えます。以前からそう感じていましたが、本日ボランティアをして、全くその通りだと承知しました。本人はこのことに気付いていないので、自分で痛くし、病氣にしてしまひ悩んでいるといえます。何か負け組的心理構造があるのでしょうか。

今回のボランティアで病氣を修飾するものというものを知つて一ツ賢くなった気がしました。